

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520059

研究課題名(和文) 鄒守益著作の文献学的研究

研究課題名(英文) Philological study of the works of Zou Shouyi

研究代表者

永富 青地 (Nagatomi, Seiji)

早稲田大学・理工学術院・教授

研究者番号：50329116

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：

鄒守益著作の調査・収集を終え、今まで全く知られていなかった明版『東廓鄒先生遺稿』を発見し、現存する清以降の刊本との異同を指摘した。また、従来全く言及されることのなかった、世界に唯一現存する孤本である『鄒東廓先生詩集』を発見し、そこに収められている鄒守益の詩の大部分は従来全く知られていなかったものであることを明らかにした。これらの明版諸本の発見が、単なる校訂上の資料ではなく、明代における思想の展開と出版物の流布との密接な関係を物語るものでもあることを指摘し、学界に一定の影響を与え、今後の鄒守益研究に新生面を開くものである。

研究成果の概要(英文)：The author has completed the search for works of Zou Shouyi and collected them. In doing so, the author has found a Ming edition of the Dongguo Zou Xianshen Yigao, that was not known to us, collating it with the so-far-available editions published after the Qing Dynasty. The author has also discovered a single surviving manuscript of the Zou Dongguo Xiansheng Shiji, and has pointed out that most of the verses by Zou Shouyi found there are previously unknown. These discoveries of Ming manuscripts are useful as materials for preparations of editions, but also show the close relation during the Ming Dynasty between philosophical developments and the spread of publications. The author believes that this study has a significant impact on the academic field and opens up a new phase in the study of Zou Shouyi.

研究分野：中国思想

キーワード：鄒守益 文献学的研究 明代思想 陽明学

1. 研究開始当初の背景

近年において、中国大陸において、陽明後学に関する研究は始まったばかりであり、全体の傾向としては、陽明学研究全般に対しても指摘できるように、地道な資料調査を基づいたテキスト研究は非常に少ない。特に江西省においてその思想を発展させてきた、いわゆる「江右王門」に属する人々の著作に関しては、文献学的研究はほとんどなされていなかった。本研究はこれら江右王門の思想家たちの代表であるの文献資料について体系的に調査・分析を行い、各テキストの成立、出版、各時代での流布状況および現存する各テキスト間の関係を解明した。

2. 研究の目的

鄒守益（東廓）は江西省における陽明後学の講学活動の中心人物であり、その著作は明代から民国時代にかけて江西省を中心に出版され続けていた。しかしながら、陽明後学の重要人物でありながら、ほとんど纏まった研究がなされてこなかった。近年において、中国大陸において、陽明後学に関する研究はやっとではじめたが、全体の傾向としては、陽明学研究全般に対しても指摘できるように、地道な資料調査を基づいたテキスト研究は非常に少ない。特に江西省においてその思想を発展させてきた、いわゆる「江右王門」に属する人々の著作に関しては、文献学的研究は皆無といわざるを得ないのが現状である。本研究はこれら江右王門の思想家たちの代表である鄒守益の文献資料について体系的に調査・分析を行い、各テキストの成立、出版、各時代での流布状況および現存する各テキスト間の関係を解明した。また、各テキストの成立・出版の考察を通して、鄒守益の著作そのものの流布状況を明らかにするとともに、江西省における王守仁（陽明）後学のネットワークと陽明学の影響についてテキストの出版と伝播の面から検討した。

3. 研究の方法

明代以降の鄒守益の著作に関する多くの文献記録及び出版された書籍の現物による調査を中心として研究を行い、鄒守益に関する著作目録を作成する。また、鄒守益の著作の成立、出版および各時代における流布状況を探り、これらの著作の編集、出版と関わった人物について考察し、鄒守益の著作の出版に関わった人物のネットワークを分析する。また、従来知られてこなかった逸文を収集、翻刻し、その成果を学界に公表する。以上の研究を踏まえた上で、陽明学の展開における書物の影響について分析した。

具体的には、まず本研究の基礎となる調査として、現在までに活字化された、陽明学関係の文献学的資料を網羅的に収集した。また、近年世界各国で出版されつつある、明代の出版に関する詳細な調査を含む著作を系統的に収集し、明代の出版における陽明学の有する意味について、世界的な視野から考察を進めた。

次に、中国に現存するテキストとの比較対照をするため、内閣文庫（東京）・蓬左文庫（名古屋）・京都大学人文科学研究所（京都）・大阪府立図書館・関西大学図書館（大阪）・九州大学文学部図書館（福岡）などの図書館に所蔵される関連文献を系統的に調査し、書誌学的データを確認の上、関係のテキストのマイクロフィルム化を進めた。そして、それらの文献の出版事情を研究することによって、明代の思想背景のなかでのこれらの著作の有する意味について研究を進めた。その後、中国大陸の各図書館、具体的には、中国国家図書館、北京大学図書館、上海図書館、復旦大学図書館、四川省図書館、南京図書館において、基本的なテキストの収集を行なった。その後、中国に現存するテキストとの比較対照をするため、すでに収集した、日本国内の各所蔵機関における関連文献との比較を詳細に行い、必要なテキストのマイクロフィルム化を進めた。

しかるのち、探索の範囲を宋明心学者の文献を多数所蔵する海外の図書館へと広げた。具体的には、上記の中国大陸の諸機関に加え、プリンストン大学ゲストオリエンタルライブラリー、ハーバード大学図書館等の北米の各図書館および台北故宮博物院、中央図書館、中央研究院などの台湾の各図書館である。そして、蒐集した資料のマイクロフィルム化が終了した時点で、それぞれのテキストの記載内容を詳細に比較することにより、従来知られていなかった鄒守益文献がどれだけ収録されているかを明らかにした。これらにより、硬直化した従来の研究に刺激を与えることが可能となったのである。

また、それらの成果は論文として纏め、日本国内での発表と同時に中国語訳し、中国の学界に紹介した。このような資料の発掘は、中国・台湾の学界が日本の学界に対して最も期待しているものであり、国際交流の面でも大きな成果が期待されるためである。特に、永富は現在中国で編纂中の学会誌に、日本の研究動向の執筆を要請されているため、中国大陸の学界に対する刺激をあたえることができた。

4. 研究成果

本研究においては、従来未発見の資料であった、明版の『東廓鄒先生遺稿』や『鄒東廓先生詩集』を発見することができた。これらの資料の詳細な分析は、既知の資料のみに頼って構成されてきた、従来の硬直した鄒守益思想の研究に新生面をもたらすことが期待できるものである。そのため、これらの資料の分析、さらには翻刻を行い、学界に対してこれらの資料の意義を紹介した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

1. 永富青地「『鄒守益集』未収詩輯佚(二) 内閣文庫蔵『鄒東廓先生詩集』より」(『人文社会科学研究』55巻、2015) 査読無、32p
2. 永富青地「王陽明の生涯と思想」(『学校』13巻(史跡足利学校研究紀要)/史跡足利学校事務所、2015) 査読無、32p
3. 永富青地「内閣文庫蔵『鄒東廓先生詩集』について」(『汲古』66巻、2014) 査読有、7p
4. 永富青地「『鄒守益集』未収詩輯佚(一) 内閣文庫蔵『鄒東廓先生詩集』より」(『人文社会科学研究』54巻、2014) 査読無、39p
5. 永富青地「『聖蹟岡』在日本の伝播情況以及研究現況と課題」(『「儒学与国际華人社会」国際儒学研討会論文集』1巻、2014) 査読無、10p
6. 永富青地「『東廓鄒先生遺稿』の諸本について」(『東洋の思想と宗教』31巻、2014) 査読有
7. 永富青地「《王文成公年譜》訂補」(『版本目録学研究』4巻、北京大学出版社、2013) 査読有
8. 永富青地「思想家の言葉はどのようにして書籍に定着したのか—王陽明を一例として」(『東アジア海域に漕ぎだす』2巻、東京大学出版会、2013) 査読無
9. 永富青地「陽明学研究における文献学の意義 『王文成公全書』所収の「年譜」への挑戦」(『東アジア書誌学への招待』2巻、東方書店、2011) 査読無

[学会発表](計5件)

1. 永富青地「『聖蹟岡』在日本の伝播情況以及研究現況と課題」(『「儒学与国际華人社会」国際儒学研討会、2014年9月18日)

2. 永富青地「明代書院の出版—以湛若水著作為例—」(『理学与嶺南社会文化』国際學術研討会、2014年6月27日)

3. 永富青地「明代における白鹿洞書院の出版について」(東亜文化交渉学会第六届国際學術大会、2014年5月8日)

4. 永富青地「關於陽明哲学研究的一些新史料問題」(『「儒家哲学研究与生態文明」座談会、2013年9月12日)

5. 永富青地「日本儒者林羅山、林鷺峰与明清变革」(明清之際的精神和思想世界国際學術研討会、2013年8月24日)

[図書](計2件)

1. 永富青地『中国書籍史のパースペクティブ—出版・流通への新しいアプローチ』(勉誠出版、2015) 359p

2. 永富青地『儒教—その可能性』(早稲田大学出版部、2011) 167p

[産業財産権]
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等 無し

6. 研究組織

(1) 研究代表者
永富青地 (NAGATOMI, Seiji)
早稲田大学・創造理工学部・教授
研究者番号：50329116

(2)研究分担者 ()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：